備後撚糸

自販事業拡大に手応え

ヤーン・フェアで「備和」訴求

備後撚糸(広島県福山市)は、今年2月開催の「ジャパン・ヤーン・フェア」に初出展し、和紙糸の自社ブランド「備和」(びんわ)をアピールした。

光成明浩社長は「製造現場スタッフもブースに立ち、売り先の顔を見ながら商談を行ったことで、外部からの刺激があった」と話す。現在、ヤーン・フェアで出会った取引先にサンプル発送や直接訪問の準備を進めており、商談ベースでも手応えを得たという。

備和は婦人服、子供服用途での採用が増えている。和紙糸による最終製品での付加価値向上だけでなく、織布業やニッターなどでの製造工程での扱いやすさを強調している。蓄積した撚糸のノウハウを生かし、製品や生産ラインに最適な備和の作成にも対応する。

2009年の和紙事業部立ち上げ以来、全社の売上高の半分程度を和紙糸販売が占める。光成社長は「現状、年度により変動はある。安定して50%程度の売り上げを維持できる体制にする」と方針を示す。備和の単独ウエブサイト(http://binnen-washiito.com/)を立ち上げるなどアピールを強化、知名度の向上と合わせ、営業面も強化する。